



【業務連絡】注文書の2週分同時提出

この注文書（5月2回）は、  
5月1回といっしょに提出  
をお願いします。

5月GWにおける生産者・メーカーの発注・納品の関係で、5月1回と2回の注文は4/25～27の週（4月4週）に回収させていただきます。なお、5月1回GWの週の供給は通常通りの曜日での供給です。

### チェルノブイリ原発事故から30年、福島原発事故から5年（2）



昨年10月、ノーベル文学賞が『チェルノブイリの祈り』で知られるベラルーシの Svetlana Alexievich さんに贈られました。ジャーナリストとしては初めてのノーベル文学賞受賞でした。

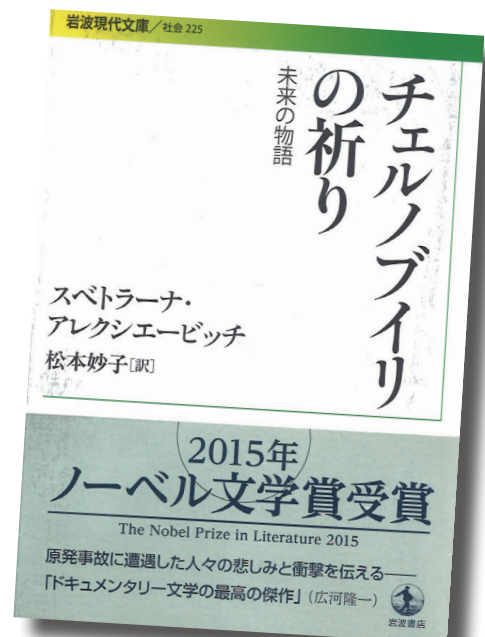
昨年は生協が40周年の準備の最中だったのでご紹介するのが遅れましたが、この4月26日でチェルノブイリ原発事故から30年を迎えることから、あらためて紹介します。

『チェルノブイリの祈り』は、事故から10年後にようやく口を開き始めた市井の名もなき人々へのインタビューを記録し言葉に残したドキュメンタリーです（1996年）。日本では講談師の神田香織さんが語り続けてきてくれました。

原発事故に遭遇した人々の悲しみと衝撃を伝えて、話されている方がその時、愛する人の姿を思い出して言葉に詰まってしまうところでは、いっしょに詰まってしまう。

1998年に邦訳され、昨年岩波の文庫にもなりました。歴史的災禍の被害者の心は決して「科学」などで語れるものではないことを教えてください。

『戦争は女の顔をしていない』も岩波文庫で再刊されました。



## アレクシエービッチ『チェルノブイリの祈り』2015 ノーベル文学賞

「孤独な人間の声」ではじまり、「孤独な人間の声」で終わる。

死者たちの大地、万物の霊長、悲しみをのりこえて。それぞれの間に、兵士たちの、人々の、そして子どもたちの「合唱」が入る。鎮魂歌なのか……本の題名は「祈り」。

### 「自分自身へのインタビュー」

消防士の妻リュドミーラさんのお話しに続いて自分に対してのインタビューがあります。

—あたりまえのことですが、人々は忘れたがっています。もう過去のことだと自分を納得させて。(それなのに)なぜあなたはこの本を書いたのですか？  
—この本はチェルノブイリについての本じゃありません。チェルノブイリをとりまく世界のこと、私たちが知らなかったこと、・・・見落とされた歴史とでもいえばいいのかしら。・・・この未知なるもの、謎にふれた人々がどんな気持ちでいたか、なにを感じていたかということです。・・・この本は人々の気持ちを再現したものです。事故の再現ではありません。

三年間あちこちまわり、いろいろ話を聞きました。チェルノブイリは、私たちがひとつの時代から別の時代へと移してしまったのです。

しかし私はほかのことについても聞きたかったです。人間の命の意味、私たちが地上に存在することの意味についても。

何度もこんな気がしました。私は未来のことを書き記している・・・。



アレクシエービッチさん

「未来のこと」・・・見落とされた歴史を記録することを通して、福島というまだ見ぬ、しかし再びの未来を見ていたのかもしれない。

### 神田香織さん

日本では中沢啓治さんの「はだしのゲン」を語り続けていた講談師の神田香織さん（福島県出身）が『チェルノブイリの祈り』に出会い、冒頭の「孤独な人間の声」～事故処理に当たって身体が朽ちてゆく消防士の妻リュドミーラさんのお話を、2年がかりで台本に。2003年以來原発の恐ろしさを語



アレクシエービッチさんと神田さん



「チェルノブイリの祈り」消防士の妻リュドミーラさんの語りをする神田さん。2013年3月つくばにて。

り、伝え続けてきていました。

2013年つくばで公演されたとき、ふるさと福島が被災したことを悲しみ、原発事故を防げなかったことを「悔しい、悔しい」とさかんに言っていました。彼女は「講談は庶民の側のジャーナリズム」と。

### 日経新聞「科学と新たな共生」？

4月9日、日経新聞にアレクシエービッチさんへのインタビュー記事がのりました。

(記者) 事故の記憶は風化がすすんでいるとの声もあります。

(アレクシエービッチ) 人々はつらい記憶を忘れようと努めている。ただ事故は数千年たっても立ち入りができない危険地帯を生み出した。原子力災害は物理的に決して風化しない。政府はできるだけ早く事故が国民に忘却されるように努めた。現地の当局者は事故に真摯に向き合うほど文明度が高くなかったためだ。汚染地域への元住民の帰還を許可するなど犯罪的な例も見られた。

と答えています(下線は生協で)。

ところが、日経新聞は「ノーベル賞作家アレクシエービッチ氏に聞く」と題して、「科学と自然 新たな共生を」と縦見出しをつけた。

彼女は「原発災害の悲劇の本質」として「共生できない」ことを語っているのに。日本の「文明度」を皮肉っているのに。

チェルノブイリでの汚染地域への帰還政策を「犯罪的な例」として、今日本で行われている福島の帰還政策を犯罪的と揶揄しているのに・・・。

日本の文明度を示す恥ずかしい記事。

もともと当時、日本人の関心は村上春樹氏がノーベル文学賞をもらえるかどうかだった。





常総生協の母親たちが共同で翻訳した『チェルノブイリの健康影響』のご案内

新しく常総生協の仲間になった方もいると思いますので、チェルノブイリ30年を機に、改めてご紹介します。

この冊子は2011年の福島原発事故を受けて、チェルノブイリ事故の健康影響を知って備えなければと、原発暮らし見直し委員会のメンバーが辞書を片手に翻訳したものです（2012年発行）。

原本はドイツの医師たちがチェルノブイリ25年を機に2011年4月に発表した『Health Effect of Chernobyl』。

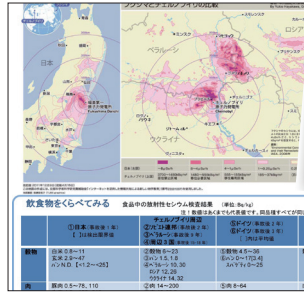
医学の専門用語や地名などで翻訳に苦労しましたが、福島原発事故の放射能汚染マップや健康上の留意点、免疫アップのおすすめレシピなども追加して、読みやすくなっており、役に立ちます。

常総生協ではこの組合員による翻訳本を参考に、組合として「子どもたちの健康調査」を行うことを決定しました。これから起きるかもしれないこと・・・いつもこの翻訳に立ち返っています。

チェルノブイリから30年、福島から5年。手にとって読んでみませんか。



翻訳メンバーは総勢25名。子どもたちを守ろうとする母親の熱意から生まれました。



頒価 500円（税込）  
ご注文は注文書意見欄に

【催し物案内】

茨城の選挙を考える市民の会主催

「低線量内部被ばくの話」

講師 尾池誠司弁護士

4/30（土）13:30～16:00  
つくば市竹園交流センター

2016.4.30(土)13:30~16:00  
竹園交流センター  
つくば市竹園3-19-2  
資料代 500円

弁護士 尾池誠司さん

国民投票権が18歳からに引き下げられたことに伴って、改正公職選挙法が成立して、今年の夏の参院選から「18歳選挙権」が適用されます。日本もやっと国際標準に追いつく形になりましたが、選挙制度や政治参加についての教育や理解は追いついていないように見えます。

市民にとってわかりにくい憲法問題や公職選挙法。憲法改正がかつてなく問われる選挙が目前に迫っています。私たちが生きる社会のあり方を決める。大事な憲法と選挙。日本の未来は私たちの投票行動にかかっています。一緒に学びましょう。

講師 プロフィール  
1987年東京都立武蔵野北高等学校卒業  
1991年中央大学法学部法学科卒業  
2006年茨城県弁護士会登録  
2013年尾池・伊藤法律事務所設立  
2014年茨城県弁護士会副会長(任期1年)  
日本弁護士連合会-憲法問題対策本部事務局員  
環境問題対策フォーラム-懇話会グループ委員  
関東弁護士連合会  
地域司法充実推進委員会委員  
茨城県弁護士会-憲法委員会副委員長  
茨城県弁護士会-子どもの権利委員会委員  
茨城県弁護士会-外国人の労働委員会委員  
茨城県弁護士会-茨城弁護士会  
つくば医療問題弁護団  
東海第二原発差止訴訟弁護団

主催：茨城の選挙を考える市民の会  
連絡先 小橋090-9108-0464 saekoobari@gmail.com  
305-0004つくば市築崎774-2  
facebook.com/groups/1705717122975380/  
http://minaba.jimdo.com/

気鋭の若手弁護士 尾池誠司さんから学ぶ

# 憲法と選挙の学習会

尾池弁護士は若手の茨城県弁護士会副会長。東海第二原発差止訴訟でも茨城弁護団の中心です。常総市の水害の際には生協よびかけの復旧作業に頑張ってくれました(右下写真中央)。今回、参院選を前に憲法と選挙のお話しをして頂きます。

原発いらぬ牛久の会主催

「低線量内部被ばくの話」

講師 児玉順一先生（内科医）

5/29（日）14:30～17:00  
牛久市中央生涯学習センター 2F

■児玉順一医師 講演会第2弾■

知っていますか？  
低線量被ばくは無害 というウソで  
原発も原発も進められてきました。

## 放射能汚染から生命と健康を守るための 低線量内部被ばくの話

講師：児玉順一医師（こだま医院院長）

知っていますか？  
放射能は遺伝子だけでなく  
細胞膜もミトコンドリアも  
狙います。

知っていますか？  
世界の放射能汚染で  
がんや病気が  
増えています。

# 5/29(日)PM2:30~5:00

牛久市中央生涯学習センター 2階 中講座室  
資料代 500円

■主催：原発いらぬ牛久の会  
■賛同：脱原発ネットワーク茨城、常総生活協同組合、環境学習同好会  
■問合せ：藤田 080-5193-5218 森川 080-3953-4653

内科医の児玉先生には放射能の健康影響について生協でもいろいろな助言や、子どもたちの健康調査にたくさんの支援・寄付を頂きました。身体のしくみと放射線の影響、世界の汚染と住民の健康について医師としてお話し頂きます。